

2019年3月期 第3四半期決算 連結業績概要

2019年2月8日

太陽誘電株式会社
経営企画本部長
増山 津二

決算サマリー

2019年3月期第3四半期 業績概要

- 売上高は740億円。中華圏スマートフォン向けが減少したが、自動車・産業機器向けは売上拡大が続く。
- 営業利益は118億円。販売価格の是正や販売ミックスの改善などにより、第2四半期比35%増。
- 売上高は、過去最高の第2四半期と同水準を維持。営業利益、経常利益、当期純利益は、過去最高を更新。

2019年3月期 業績予想

- 業績予想は変更なし。

2019年3月期第3四半期 業績概要

売上高は740億円。

中華圏スマートフォンの生産台数減少の影響はあったが、自動車・産業機器向けは堅調で売上の拡大が続いている。

営業利益は第2四半期に対して35%増の118億円。

販売価格の是正や販売ミックスの改善などが増益に寄与。

売上高は、過去最高だった第2四半期と同等の高い水準を維持。

営業利益、経常利益、当期純利益は、四半期ベースでの過去最高を更新。

2019年3月期 業績予想

11月に発表した業績予想からの変更はない。

連結業績概要(前四半期比)

百万円	2019年3月期 第2四半期		2019年3月期 第3四半期		増減	
売上高	73,989	100.0%	73,963	100.0%	△26	△0.0%
営業利益	8,722	11.8%	11,789	15.9%	3,067	35.2%
経常利益	8,489	11.5%	11,403	15.4%	2,914	34.3%
親会社株主に 帰属する当期純利益	5,334	7.2%	9,069	12.3%	3,734	70.0%
対米ドル期中平均レート	110.84円		112.71円		1.87円円安	
為替変動による影響額	売上高 +8億円、営業利益 +8億円 ※米ドル以外の通貨影響含む					
研究開発費	3,321		3,227		△94	△2.8%
設備投資額	8,067		17,466		9,398	116.5%
減価償却費	6,461		6,826		364	5.6%

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

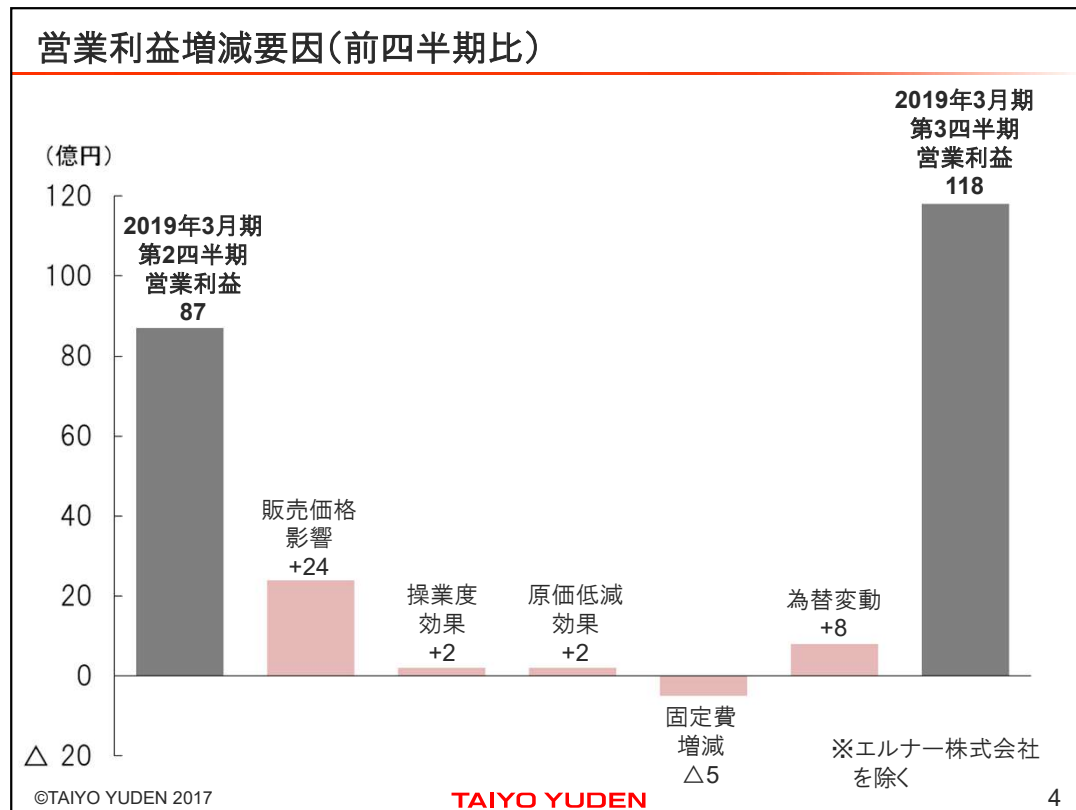
3

売上高は740億円、営業利益は118億円。
売上高は11月時点の想定通り、営業利益は想定を上回った。

経常利益は114億円、親会社株主に帰属する当期純利益は91億円だった。

期中平均の為替レートは、1ドル112.71円。第2四半期に対して1.87円の円安。
これによる影響は、売上高、営業利益ともにプラス8億円。
アジア通貨安でコストが抑制されたため、
営業利益へのプラス影響が通常より大きく出た。

研究開発費は32億円、第2四半期から微減。
設備投資額は175億円、第2四半期から94億円増加。
第2四半期から大きく増えたのは、コンデンサの生産子会社である
新潟太陽誘電の3号棟が12月に完成したため。
減価償却費は68億円、第2四半期に対して4億円増加。



増益要因として、販売価格の値上げ24億円。
かねてより顧客に対して価格是正の交渉を続けており、その効果が発現。

操業度効果は2億円。
販売数量増減やミックス改善、棚卸資産の増減などの影響が含まれる。
12月末の全社の棚卸資産は、為替影響など利益増減に影響がない部分を除いた実態ベースで9月末から約14億円増加。

このほか、原価低減効果2億円、為替変動による影響8億円が増益要因。

減益要因は、固定費の増加5億円。

その結果、営業利益は第2四半期から31億円増加し、118億円。

製品別売上高(前四半期比)

百万円	2019年3月期 第2四半期		2019年3月期 第3四半期		増減	
コンデンサ	43,984	59.4%	47,362	64.0%	3,378	7.7%
フェライト及び応用製品	11,926	16.1%	11,209	15.2%	△716	△6.0%
複合デバイス	13,160	17.8%	10,783	14.6%	△2,377	△18.1%
その他	4,918	6.6%	4,607	6.2%	△310	△6.3%
合計	73,989	100.0%	73,963	100.0%	△26	△0.0%

製品別売上高(前四半期比)

(億円)



■ コンデンサ (前四半期比 +8%)

自動車向け、産業機器(通信基地局、サーバーなど)向け、情報機器向けなどが増加。

■ フェライト及び応用製品 (前四半期比 △6%)

民生機器向け、情報機器向け、自動車・産業機器向けが減少。

■ 複合デバイス (前四半期比 △18%)

中華圏スマートフォンの生産台数減により、通信デバイス(FBAR/SAW)が減少。

■ コンデンサ

■ フェライト及び応用製品

■ 複合デバイス

■ その他

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

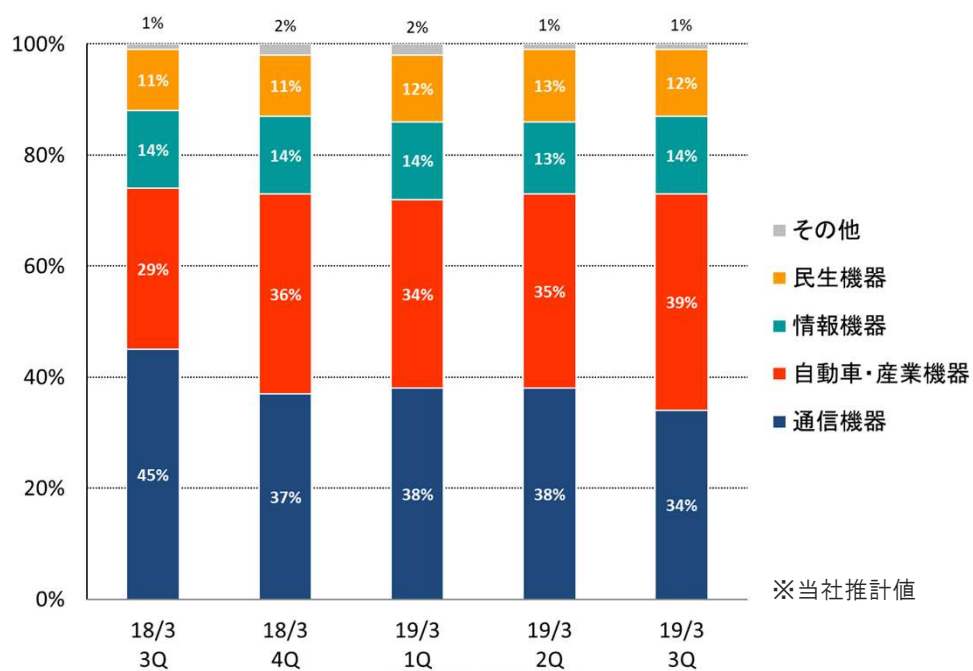
6

コンデンサの売上高は474億円、第2四半期に対して8%増。
自動車向け、通信基地局やサーバーといった情報インフラ系の産業機器向け、情報機器向けなどが増加。

フェライト及び応用製品は売上高112億円、前四半期から6%減少。
民生機器向け、情報機器向け、自動車・産業機器向けが減少。

複合デバイスの売上高は108億円、第2四半期から18%減。
電源モジュールは増加したが、中華圏スマートフォンの需要減速により、通信デバイス(FBAR/SAW)が減少。
なお、複合デバイスの売上に占める通信デバイスの割合は、50%台後半。

用途分野別売上構成



©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

7

用途分野別の売上構成比は、自動車・産業機器向けが39%、通信機器向けが34%。

スマートフォンの需要動向による業績への影響を低減するために自動車・産業機器向けの比率を高めてきた。バランスのよい事業構造を確立することで、業績の安定性向上を目指す。

2019年3月期 連結業績予想

百万円	2018年3月期 実績	2019年3月期 業績予想 [2018.11.9発表]	増減	
売上高	244,117	271,000	26,883	11.0%
営業利益	20,221	30,000	9,779	48.4%
経常利益	20,553	30,000	9,447	46.0%
親会社株主に 帰属する当期純利益	16,355	21,000	4,645	28.4%
研究開発費	10,574	13,000	2,426	22.9%
設備投資額	24,549	43,000	18,451	75.2%
減価償却費	25,589	27,000	1,411	5.5%

- ・業績予想は変更なし。
- ・第4四半期の期中平均為替レートは1米ドル110円と想定。

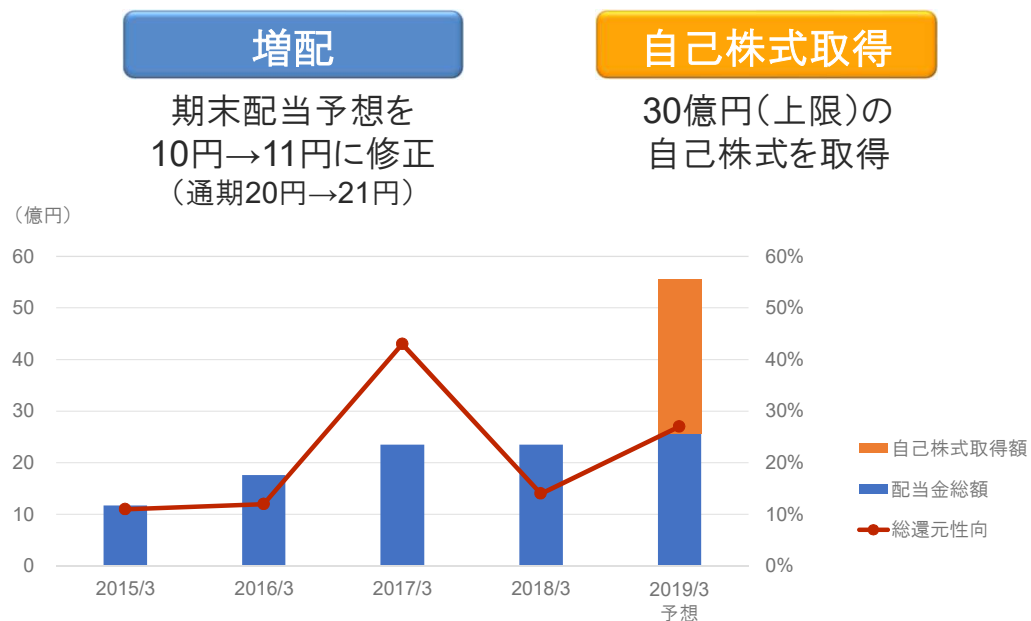
11月に発表した業績予想を据え置き。
通期で売上高2710億円、営業利益と経常利益は300億円、
親会社株主に帰属する当期純利益210億円を目指す。

補足情報として、17ページに受注高と受注残高のデータを示す。
第3四半期後半からスマートフォン向けを中心に受注が減速し、
12月末の受注残高は、コンデンサの需給ひっ迫が過熱していた
一時期と比較すると減少している。
しかし、受注残高の水準としては、第4四半期の業績について
悲観的になる必要はないと考えている。

第4四半期の各製品の売上イメージは、第3四半期に対して
コンデンサが15%前後、フェライト及び応用製品は25%前後、
複合デバイスは5-10%の減少を見込み、
その他はエルナーの売上を含めて第3四半期並みと想定。
全社合計では15%前後売上が減少すると予測している。

コンデンサの稼働率は、第3四半期までフル稼働が続いていた。
第4四半期も90%という高い稼働率を維持。
自動車・産業機器向けの需要は引き続き堅調であることから、
必要な水準の在庫を確保するために在庫の積み増しを予定。

株主への利益還元



安定的な総還元性向30%の実現を目指す

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

9

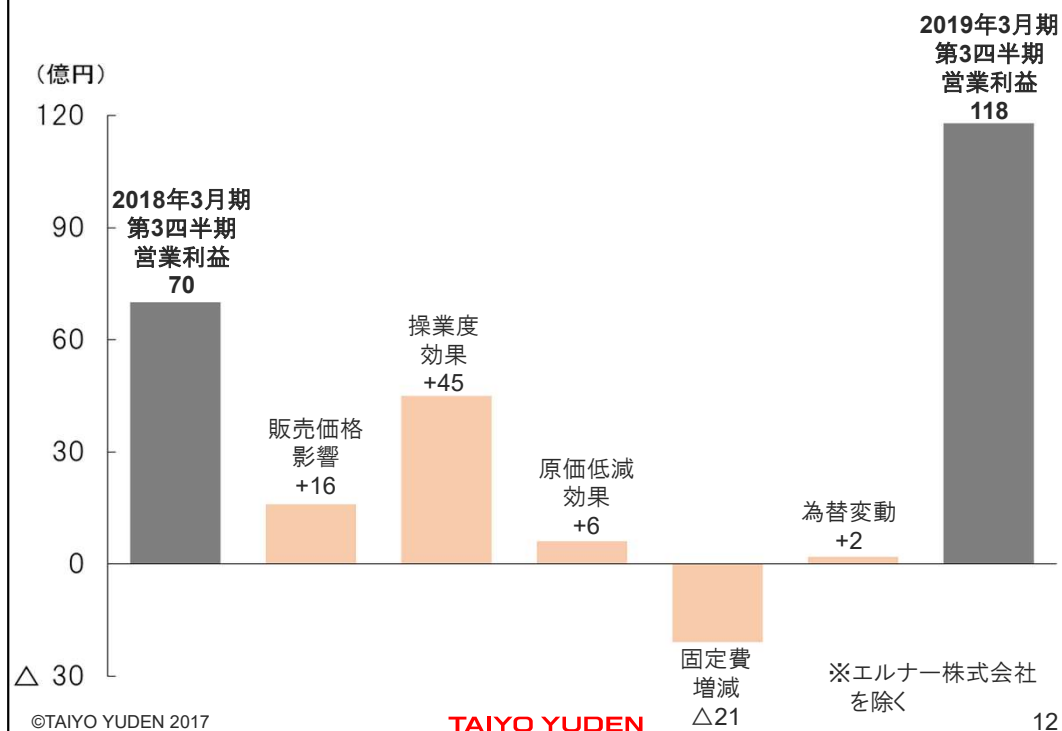
増配と自己株式の取得を実施。
 当社は、株主の皆様への利益還元の充実を経営の最重要課題のひとつと位置付けている。
 目標は、配当と自己株式の取得による総還元性向30%。
 将来の成長のための設備投資や研究開発などを行いつつ、株主の皆様へも利益を還元していきたい。

補足資料

連結業績概要(前年同期比)

百万円	2018年3月期 第3四半期		2019年3月期 第3四半期		増減	
売上高	66,053	100.0%	73,963	100.0%	7,909	12.0%
営業利益	6,985	10.6%	11,789	15.9%	4,804	68.8%
経常利益	6,596	10.0%	11,403	15.4%	4,807	72.9%
親会社株主に 帰属する当期純利益	5,301	8.0%	9,069	12.3%	3,768	71.1%
対米ドル期中平均レート	112.23円		112.71円		0.48円円安	
為替変動による影響額	売上高 △0.1億円、営業利益 +2億円 ※米ドル以外の通貨影響含む					
研究開発費	2,373		3,227		853	36.0%
設備投資額	5,717		17,466		11,748	205.5%
減価償却費	6,380		6,826		446	7.0%

営業利益増減要因(前年同期比)

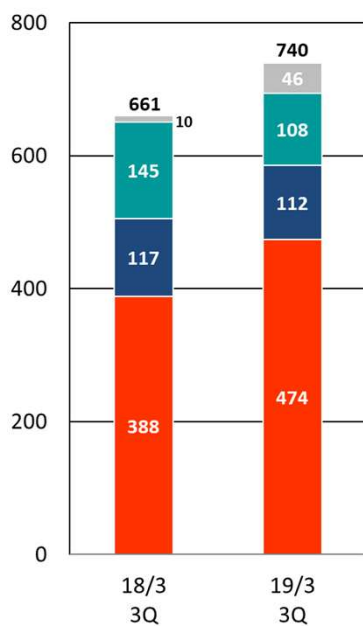


製品別売上高(前年同期比)

百万円	2018年3月期 第3四半期		2019年3月期 第3四半期		増減	
コンデンサ	38,800	58.7%	47,362	64.0%	8,562	22.1%
フェライト及び応用製品	11,746	17.8%	11,209	15.2%	△537	△4.6%
複合デバイス	14,533	22.0%	10,783	14.6%	△3,750	△25.8%
その他	972	1.5%	4,607	6.2%	3,634	373.7%
合計	66,053	100.0%	73,963	100.0%	7,909	12.0%

製品別売上高(前年同期比)

(億円)



■ **コンデンサ** (前年同期比 +22%)

自動車向け、産業機器(通信基地局、サーバーなど)向け、情報機器向けなどが増加。

■ **フェライト及び応用製品** (前年同期比 △5%)

スマートフォン向けが減少。自動車向けは堅調。

■ **複合デバイス** (前年同期比 △26%)

中華圏スマートフォンの生産台数減により、通信デバイス(FBAR/SAW)が減少。

■ **その他** (前年同期比 +374%)

子会社化したエルナー株式会社の売上が加わった。

■ コンデンサ

■ フェライト及び応用製品

■ 複合デバイス

■ その他

連結業績推移(四半期)

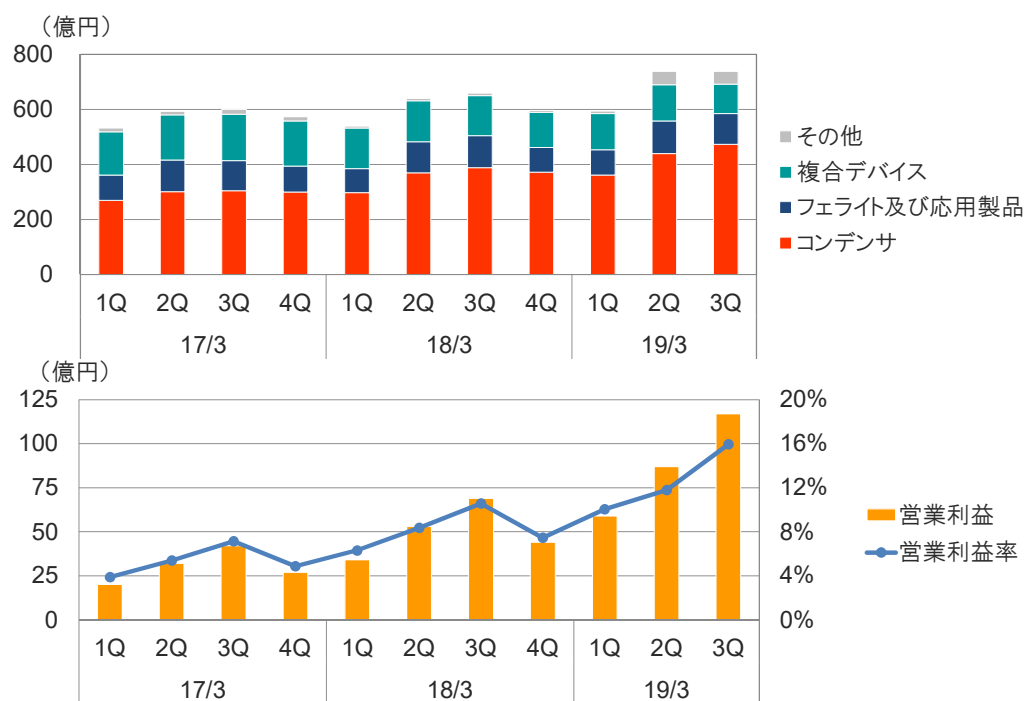
百万円	2017年3月期				2018年3月期				2019年3月期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	53,471	59,561	60,185	57,498	54,072	64,107	66,053	59,883	59,576	73,989	73,963
コンデンサ	26,963	30,120	30,580	30,002	29,747	37,019	38,800	37,290	36,184	43,984	47,362
フェライト 及び応用製品	9,243	11,594	10,959	9,475	8,847	11,376	11,746	9,006	9,228	11,926	11,209
複合デバイス	15,860	16,490	16,804	16,424	14,711	14,871	14,533	12,722	13,208	13,160	10,783
その他	1,404	1,355	1,841	1,595	766	840	972	863	954	4,918	4,607
営業利益	2,074	3,216	4,298	2,795	3,412	5,362	6,985	4,460	5,981	8,722	11,789
経常利益	829	2,202	6,676	1,491	4,421	5,599	6,596	3,935	6,896	8,489	11,403
親会社株主に 帰属する 当期純利益	224	683	4,067	454	3,113	4,265	5,301	3,675	5,645	5,334	9,069
対米ドル 期中平均レート	110.70 円	103.69 円	104.69 円	114.63 円	111.81 円	111.11 円	112.23 円	110.62 円	107.76 円	110.84 円	112.71 円

©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

15

連結業績推移(四半期)

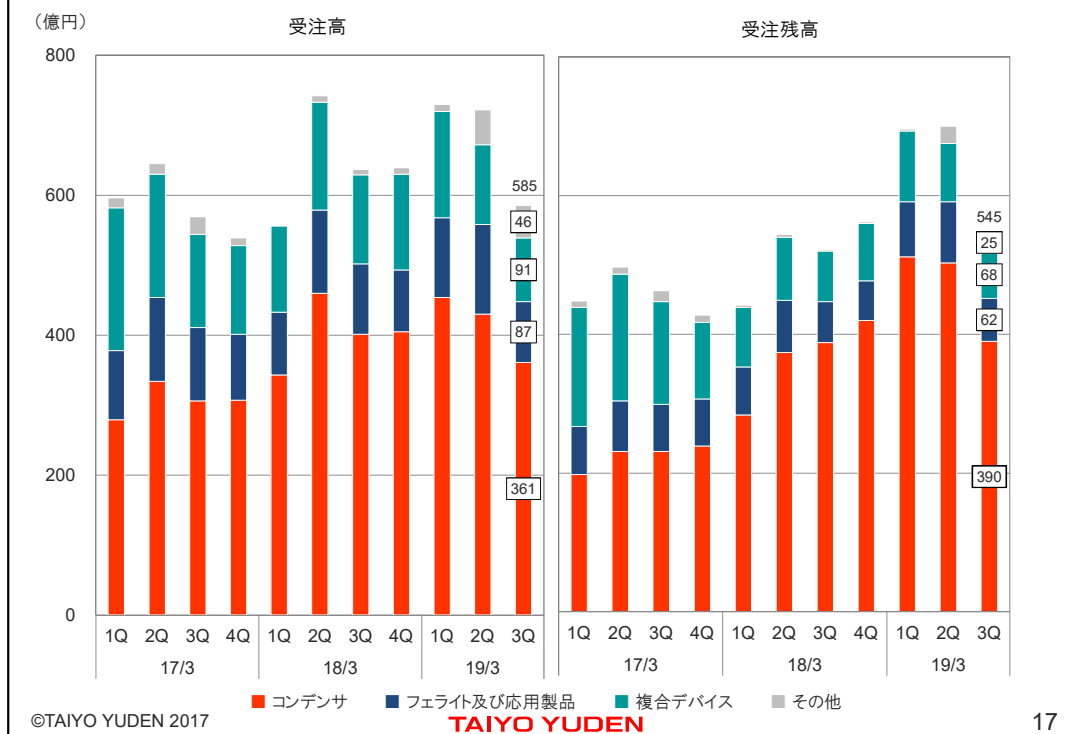


©TAIYO YUDEN 2017

TAIYO YUDEN

16

受注高・受注残高推移(四半期)



第3四半期後半からスマートフォン向けを中心に受注が減速し、12月末の受注残高は、コンデンサの需給ひっ迫が過熱していた一時期と比較すると減少している。
 しかし、受注残高の水準としては、第4四半期の業績について悲観的になる必要はないと考えている。

当資料に記載されている、当社(太陽誘電株式会社、および当社グループ)に関する計画、業績見通し、戦略、確信等のうち、将来の記述をはじめとする歴史的事実ではないものは、すべて現在、当社が入手している情報に基づいて行った予測、想定、認識等を基礎として記載しているものであり、その性質上、客観的に正確であるという保証、ならびに将来その通りに実現するという保証はありません。実際の業績は、数々の要素により、現状の見通し等とは大きく異なる結果となりえ、かつ、当社が事業活動の中心とするエレクトロニクス市場は変動性が激しいことから、当資料に全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。

TAIYO YUDEN

©TAIYO YUDEN 2017